



平成29年度中学校武道授業（弓道）指導法研究事業

平成29年度中学校武道授業（弓道）指導法研究事業（主催＝日本武道館、全日本弓道連盟、日本武道協議会、後援＝スポーツ庁）は8月9・10日、日本武道館（東京・千代田区）で実施された。今回は研究者7名が授業採択に向け、短時間でも効果の上がる指導法について、実技を交えた検討協議を行った。また、今年度から弓道授業を開始する公立中学校の保健体育科教員を対象に、授業準備のための実技指導が行われた。

■初日（8月9日）

開講式の主催者挨拶は、はじめに三池真幸全日本弓道連盟事務局次長が挨拶に立った。

「本研究事業は毎年2月の全国研修会と合わせて日本武道館で開催している大切な事業です。前回は弓道採択に向けたリーフレットを作成した。全国の中学校に配布したところ、都内で3校が興味を示し、今年度弓道授業を実施することになった。午後から参加する研究協力者には実際に弓道を体験してもらい、授業準備に役立てていただきたい」

続いて、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が「武道必修化は5年が経過し、折り返しに差し掛かった。リーフレットと指導書が全国の中学校へ配布され、私立中学校を中心に弓道授業の実施を検討しているとの声を聞いている。少子化が進む中、弓

道と合気道は愛好者が増えている。弓道はやると楽しいが弓具や道場、指導者の経験が一つの壁になっている。より良い指導法は何か、外部指導者の活用を含め、授業の展開を本事業で検討していただきたい」と述べた。

開講式後は、平成21年度から全日本弓道連盟が取り組んできた、授業実施予定校に対する弓具の寄贈について、寄贈校での現状を把握するためのアンケート作成を行った。アンケートには以下のような項目が盛り込まれた。

Q 弓具の寄贈についてどこで知りましたか。

①弓道誌 ②指導者 ③リーフレット等

Q 弓道授業実施状況について

・実施場所はどこですか。

①体育館 ②弓道場 ③運動場

・指導者について

①保健体育科教諭（弓道経験者・未経験者）

②保健体育科教諭（ ）人＋外部指導者（ ）人

③その他の指導者（ ）人

Q 授業実施について

・対象学年（複数回答可）

①1年 ②2年 ③3年

・対象生徒

①男子 ②女子 ③男女共修

昼食・休憩後に全員で武道編と弓道編のDVDを視聴した。引き続き、第二小道場に会場を移し、実技指導の検討協議が行われた。

実技指導では、3名の研究協力者に対し、3時間授業を想定した基本動作における立ち方、座り方、礼法を教示した。その後、グローブ式の「かけ」をつけて巻藁に向かって矢を放ち、弦枕の有無で親指の感じる痛みの違いを実感した。松本代志博研究者を中心に指導が行われた矢番え動作では、矢の落ちない簡易的な取掛け動作が紹介された。終了後、弓道を初めて体験した研究協力者から意見・感想を聞いた。

◇研究協力者の声

●本田貴志研究協力者（練馬区立石神井西中学校）

今回初めて弓道に触れた。はじめはもっとできると思っていたが、やってみると非常に難しかった。細かい動作一つ一つに意味があり、これは生徒の興味関心につながると思う。今年度は3時間と短い時間ではあるが、うまく実践できれば来年度以降につなげていけると思うので、先生方の協力を得ながらやっていきたい。

●藤下幸延研究協力者（江東区立砂町中学校）

礼法や立ち姿勢、正座など基本動作を行う時の力加減が難しかった。今は特に左手が痛くなっている。弓道を通して生徒達には、礼法や作法を身に付けさせることが重要と考えているので、自分なりに工夫しながら指導していきたい。自分自身も基本動作を繰り返す中で身が引き締まったと思う。今年度中の実施は難しいが、来年度弓道授業が実施できるよう努力していきたい。

●槻田ちひろ研究協力者（文京区立第三中学校）

初めて参加させていただき、用語の多さや礼法の実践で新しい発見が多かった研究事業になった。生徒達には矢を飛ばす楽しさを味わってもらいたいが、学校教育では評価をしなくてはならない。何が出来たか、どこがポイントか、どのように指導すればよいかを先生方にアドバイスをいただきながら検討していきたい。今年度5時間の授業実施に向け、生徒に弓道を通じて何を伝えるか、また継続実施できる指導法は何かを考えながら準備していきたい。



■2日目（8月10日）

早朝より、来年2月に行われる第6回全国弓道指導者研修会の骨子について検討協議が行われた。

武道必修化6年目を迎え、学校現場で実際に役立つ指導法・内容を念頭に置き、3日間の日程表を再検討、併せて3時間、5時間という授業時間数でも弓道の楽しさ・魅力に触れられる指導法を紹介できる講師人選を検討した。さらに本研究事業での成果を発表する機会を設け、今まで以上に弓道未経験者の保健体育科教員に「これなら授業ができる」という実感を味わってもらい、中学校に持ち帰って授業実践に繋げてもらうためのコマを設けたらどうかなど中学校現場を意識したカリキュラム作りを重点的に協議した。

次期学習指導要領では武道9種目が並列明記されることを受け、これからは専門用語の多い弓道をどのように理解してもらうかが重要になってくるので、難しいという先入観を取り除き、学校体育として評価方法を含め、研修会を工夫していくことが重要であると再確認した。

閉講式では、桑田秀子研究者、吉野喜信日本武道館振興部長がそれぞれ講評とまとめの挨拶を述べ、2日間の日程を終了した。

